

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	世界史B	5	2年2・3・9組

使用教科書	副教材
詳説 世界史B 改訂版 (山川出版社)	グローバルワイド 最新世界史図表 (第一学習社) 世界史用語集 (山川出版社) 山川 一問一答世界史 第2版 (山川出版社)

1. 学習の目標

古代から近現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を涵養する。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学ぶ。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察する。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解する。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	序章：先史の世界	・人類の進化の過程について把握させる	授業態度 授業ノート提出 宿題プリントの提出 定期試験の成績
		第1章：オリエントと地中海世界 A 古代オリエント世界 B ギリシア世界 C ヘレニズム世界 D ローマ世界	・人類にとっての食糧生産革命（新石器革命）の意義について考察し、農耕・牧畜の開始による文明の成立を理解する。 ・オリエントの古代文明の成立と発展の過程とその後オリエントを統一した2つの帝国の特徴を把握し、違いを考察する ・ポリスと古代民主政治の特徴を中心に、古代ギリシア文明の特質を理解させ、またオリエント世界が融合してヘレニズム世界が成立したことを把握させる。 ・オリエント世界の影響を受けて発達した地中海世界で民主政治と専制君主政治の相違を理解させる。 ・都市国家ローマの和政の特徴と、支配の拡大に伴う社会の変化について理解させる。 ・元首政期のローマ社会の特徴について整理すると共に、共和政から帝政への移行とその必然性を理解させる。 ・ローマ文明が後世に伝えた影響について理解させる。 ・イラン文明と周辺諸国との関係を、パルティアやササン朝の統治体制、ペルシア文化の特質から考察する。	
	5	第2章：アジア・アメリカの古代文明 A インドの古典文明 B 東南アジア文明	・インド文明と、今日も残るカースト制社会の起源を理解する。 ・インダス文明からクシャーナ朝時代までの古代インド史の特質を、仏教を中心に把握させる。 ・ヒンドゥー教の成立を中心に、インド世界の基盤が形成された過程を把握させる。	
	6	C 中国の古典文明	・中国文明の起源を理解し、中華帝国の形成過程を考察する。 ・黄河文明、邑制国家の成立、社会の変動と諸思想の出現について理解させる。 ・秦漢帝国の中央集権的専制国家の形成、三国時代から隋・唐の時代の諸制度の確立と周辺地位への拡大による東アジア文明圏の形成過程を把握させる	
	7			

2	9	第3章:東アジア世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・北方民族の動きに注目させながら、唐滅亡から宋の成立に至る時期の東アジアの変動について理解させる。 ・唐末から宋代において発展した都市経済や当時の文化について考察し、中国社会の成熟と文化の発展を理解する 	授業態度 授業ノート提出 宿題プリントの提出 定期試験の成績
		A 北方民族の活動と中国の分裂		
		B 東アジア文化圏の形成		
		第6章:内陸アジア・東アジア世界の展開		
	10	A 東アジア諸地域の自立化	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸におけるモンゴル民族の勢力拡大、モンゴル帝国の歴史的意義について考察し、支配と文化の東西交流を理解する。 ・モンゴル帝国の支配体制の特徴を理解させ、社会・経済の発展と当時の文化について考察する 	
		B モンゴルの大帝国		
	11	第7章アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・明、清それぞれによる支配体制の特質を理解させ、その社会・経済の発展、当時の文化について考察する。 ・明、清それぞれによる支配の拡大と、朝貢貿易による東アジア世界の秩序を理解する。 	
		A 東アジアの動向		
		B 清代の中国と隣接諸地域		
	12	第4章:イスラーム世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教成立の経緯と諸民族へのイスラーム教の普及に伴うイスラーム世界の拡大と、地方政権の成立と発展について理解させる。 ・イスラーム文明の特質を考察し、その融合性や普遍性を理解させ、イスラーム文化の世界史的意義について認識させる。 	
		A イスラーム世界の成立		
		B イスラーム世界の発展		
C インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化				
12	第7章:アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・トルコ世界とイラン世界の特質を理解させる。 ・オスマン帝国の内政や社会の特質を理解させ、また、ヨーロッパ世界との関連を視野に入れオスマン帝国を捉えさせる。 ・インドにおけるイスラーム教とヒンドゥー教の宗教対立と融和の歴史を、ムガル帝国の支配を通して理解させる。 		
	C トルコ・イラン世界の展開			
	D ムガル帝国の興隆と衰退			
3	1	第5章:ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・東欧世界と西欧中世世界のそれぞれの歴史的特質を国家と宗教の両面から考察する。 ・封建社会の形勢とその特徴、都市の発展について把握させ、西欧中世社会の特質を理解させる。 ・教皇権の拡大と十字軍を通して、封建制崩壊と西欧外への拡張を理解させる。 ・西欧文化と、ビザンツ・イスラーム世界の関連に注目させる。 ・教皇権衰退と王権伸長の様相から、封建社会の衰退を考察。 ・科学精神の目覚めと市民階級の台頭を理解する。 	
		A 西ヨーロッパ世界		
		B 東ヨーロッパ世界		
		C 西ヨーロッパ中世世界の変容		
	D 西ヨーロッパ中世文化			
	2	第8章:近世ヨーロッパの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・新航路開拓でポルトガル・スペインが発展したことに気付かせる。 ・欧州のみならず、世界各地で生じた社会変容を理解させる。 ・ヒューマニズムについて理解させる。 ・権利の伸長を求めた市民階級存在と宗教改革の関連を理解させる。 ・オランダの覇権と英仏の台頭を中心に、17世紀の西欧について理解させる。 ・プロイセンの強国化やロシアの台頭の課程とその影響について、当時の国際関係をふまえて理解させる。 	
A ヨーロッパ世界の拡大				
3	B ルネサンス	授業態度 授業ノート提出 宿題プリントの提出 小テスト成績 定期試験の成績		
	C 宗教改革			
	D ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。